

LIBERA

経法大の今がわかる
[リベラ]
KEIHO MAGAZINE

Vol. **95**
October 2025

GO BEYOND

越えていけ



未来を生き抜く学び。
大阪経済法科大学

留学でキャリア観が広がった！

1年生のうちから 海外インターンシップへ

大学入学前に参加した外国人に日本語を教えるボランティアでの経験や、入学後、同じ国際学部で日本語の勉強を頑張っている留学生との交流を通して「将来は日本語教師になりたい」と考えるように。1年次から海外インターンシップに参加し、夏休みの3週間、オーストラリアの日本旅館へ。「海外で英語を使って働く」という貴重な体験ができ、楽しかったです。

次に本格的な留学をめざすにあたり、私が希望した留学先はドイツ・アーレン大学。参加条件としてTOEICスコア800以上が必要だったので、猛勉強しました。英語での日常的な会話には自信がありました。文法が苦手で、入学当初のスコアは435。それでも過去問を繰り返し、中山先生や本多先生にも丁寧な対策指導をもらえたことで、スコアを大きく伸ばし、条件をクリアできました。

「英語で学ぶ」授業から 新しい未来が見えた

アーレン大学を希望した理由は、語学留学でなく、専門分野を「英語で学ぶ」ことができるから。実際に留学中は、デジタルマーケティング、経営戦略など、様々な科目の授業を受けました。特に興味深かったのは国際人事管理の授業。働く人のバックグラウンドをふまえたマネジメントの考え方は、日本語教師の仕事とも重なる部分があり、「国際的な企業でそういう仕事をするのも面白い」と視野が広がりました。

帰国後はビジネスシーンでの英語力を養う授業や、国際機関について英語で学ぶ授業を履修しています。日常的に国際情勢について論じ合う海外の友人たちに触発され、「もっと世界の動きにも目を向けよう」という意識も高まりました。希望進路の選択版も広がり、今は「留学経験を生かしてドイツの企業へ」など、自分の将来についていろいろ考えを巡らせています。

ドイツ
アーレン大学への
交換留学を実現！

TOEIC[®]スコア:435

840



土井 那月さん

国際学部 国際学科 3年
奈良県立国際高校 出身

PROFILE

自分の限界を
越えていけ。

GO BEYOND

日本企業を支える公認会計士に！

アカプロ[※]で試験対策を 着実に進める日々

高校では商業コースで簿記を学び、日商簿記検定2級も取得しました。そうした学びをふまえて将来の職業について考え、公認会計士を志すように。そしてそのゴールにたどり着くための一番いい学修環境を提供してくれる進学先として、アカプロなどが整備されたこの大学を選びました。

入学当初からSコース会計職講座を受講し、まずは9月のアカプロ選抜試験に向けた準備を進めました。選抜試験合格後はアカプロで、簿記1級や公認会計士試験に向けた対策学習を本格化。CPA会計学院の動画での講義を受け、わからなかった点などを学部の授業でアカプロ担当の藤原先生に詳しく教えてもらって理解を深める、といった学修の進め方で着実に力をつけることができたと思います。2年生の6月は日商簿記検定1級に合格。「やれる」という大きな自信と手応えがつかめました。

学びを深めるなかで 自らの使命も見えてきた

今は12月に受験予定の公認会計士の短答式試験に向け、計画的に学修を進めています。そうした学修計画や日々の勉強方法についても、藤原先生から具体的なアドバイスをいただけたのがありがたいです。実際にこの大学で学んで公認会計士試験に合格された藤原先生が、アカプロで学ぶ自分たち一人ひとりに寄り添って指導してくださるのは本当に心強く感じます。またゼミでは引地先生の指導のもと、外国の会計基準や今の社会情勢をふまえた会計知識が学べ、視野が広がっています。

将来はコンサルティングによって企業の様々な問題を解決できる公認会計士になりたい。父が会社経営をしているのですが、大学で学修を進めるなかで父の会社の経営課題も理解できるようになり、会計士の社会的責任を実感しています。まずは現役合格をめざし、頑張りたいです。

日商簿記
検定試験

1級合格



和田 輝さん

経営学部 経営学科 2年
大阪市立扇町総合高校
(現・大阪府立桜和高校) 出身

PROFILE

※ Program of Accounting Profession 公認会計士・税理士養成プログラム 通称「アカプロ」。在学中に公認会計士や税理士、日商簿記検定試験1級の資格を取得し、卒業後は会計プロフェッションとして、財務データの分析から課題の発見、確かな理論に基づいた改善提案ができる力を身に付けるプログラム。アカデミックに精通した教員と実務経験豊富な教員が指導している。

司法試験 予備試験 (短答式試験)

合格

生活困窮者に寄り添う弁護士に！



PROFILE

佐竹 正徳さん

法学部 法律学科 3年
北海道札幌東商業高校 出身

福祉行政の現状を
変える力になりたい

2006年に起きた「京都伏見介護殺人事件」について、私は高校2年生の時にメディアを通じて知り、ショックを受けました。貧困と介護疲れから母親を殺害したというこの悲劇は、生活保護行政のあり方が違っていれば防げたことかもしれません。そうした行政や法律の現状を変える力になりたいと考え、私は弁護士をめざそうと決意しました。その4カ月後には独学で行政書士の資格試験に合格して手応えをつかみ、高校卒業後は法曹をめざすための学修環境が充実しているこの経法大に進学しました。

学費の負担も少なく早期に司法試験をできる道として予備試験に着目し、大学では予備試験合格を第一の目標として1年時からSコースを受講して学修に励みました。法学部の先生方もいつでも熱心に指導してくださり、その甲斐あって今夏、予備試験の短答式試験に合格できました。

大学や法科大学院で学ぶ
その意義にいま気づいて

試験勉強に打ち込む一方で、生活保護訴訟の原告の集会に参加したり、児童福祉への関心から保育士資格試験に挑戦したり、生活保護問題の議員研修会のお手伝いをしたり。こうした経験は、将来弁護士として活躍するうえで必ず役立つはずですよ。

9月に受けた論文式試験の合格発表は12月。さらに1月の口述試験もあわせてパスできれば、司法試験の受験資格を得ることができそうです。でも優れた友だちとともに学ぶこの大学での日々を経て、今の私は「大学院でさらに学びを深めたい」と考え始めています。実は法科大学院進学3年卒業特別プログラムにより、飛び級の法科大学院受験にも挑戦中です。立命館大学には首席で合格でき、今後は国立大学の法科大学院入試に挑んでいく予定です。困っている人に寄り添える弁護士としてのより確かな力を、法科大学院でしっかりと身につけたいと思います。

活躍する学生たち

国境を越え、古い枠組みを越え、周囲の期待を越え、自らの想像すらも越え、それぞれ大きな目標に向かって成長し続ける学生たちの声をお届けします！

日本に飛び込み
トリリンガルに。
IT資格も取得！

ITパスポート合格
日本語能力試験 N1合格
TOEF LiBT® 94点

異文化の地で、自分の可能性を証明。



PROFILE

譚 昊さん

国際学部 国際学科 1年
(中国) 杭州市学軍中学 出身

異文化への強い関心が
語学力を高める原動力に

中学生の時にアメリカでの半月間のサマーキャンプに参加し、初めてふれた海外の異文化をととても楽しく感じました。そこから「自分が知らない世界の文化をもっと学びたい」と本気で留学を考えようになり、「高校卒業後は母国の中国からも近い日本の大学に」と決心。以後、英語と日本語の勉強に励み、来日直前に受けたTOEFL iBT®テストで94点が取れました。

来日後もまず語学学校で日本語の学びを深め、日本語能力検定N1に合格。それでもこの大学に入學後、最初は日本の学生とのコミュニケーションに苦労しました。検定試験と生きた日本語との違いに驚き、関西弁も難しくして。でも日本人の友だちが増えると会話にも慣れ、ドイツやウクライナ、ベトナムなどからの留学生とは英語で話す機会もあり、今は日常のなかで多様な文化が学べる毎日にとっても満足しています。

資格取得を通じて
自身の価値向上を実感

今の社会では情報系スキルが不可欠と考え、入学当初からSコースIT講座を受け、7月にITパスポートに合格。また夏休み中に金融リテラシー検定にも合格できました。Sコースでの指導を担当してくださった経営学部の教員等の勧めもあり、今後いろいろな資格取得に挑戦したいと考えています。何より資格試験に合格するたび、自分の価値の高まりを実感できるのが嬉しく、それが意欲の向上に繋がっています。

将来は資格を生かして日本でキャリアを重ね、いずれは日本で起業したい。そして日本を拠点として世界中を飛び回り、まだ自分が知らない、いろいろな文化にふれながら仕事をすることが私の夢です。そのためには語学力の継続的なレベルアップが重要と考え、引き続き、日本語能力検定N1への挑戦を続け、さらに高得点を更新し、自分の価値を高めます！

国際共修に関する 基本方針を公表

近年、文部科学省においても「大学の国際化」や「高度外国人材の受入れ・定着の促進」などが重要政策として掲げられ、留学生の受入れ、日本人学生の海外派遣、国際的な学び合い（いわゆる国際共修）が、大学に求められる重要な役割となっています。本学では、建学の理念である「人権の伸長と国際平和への貢献」に基づき、長年に渡り多彩な国際教育の取り組みを推進してきました。今般、本学では改めて、これらの取り組みを「国際共修」として明確に位置づけたいと、今後の教育活動の土台とするため、学則を改正（2025年8月1日施行）し国際共修の推進を定めると同時に、指針となる「国際共修に関する基本方針」を定めました。



大阪経済法科大学における国際共修に関する基本方針

大阪経済法科大学の建学の理念の一つである「教育研究を通じて人権の伸長と国際平和に貢献すること」は、本学の教育活動すべてに通底する根本的な価値観であり、グローバル化が進む現代社会においてますますその意義は増えています。

本学は、この理念に基づくこれまでの教育実践を踏まえて、「国際共修」を全学的な教育の基本方針として位置づけます。本学における国際共修は、出身国・地域、言語、宗教など多様な文化的及び社会的背景を持つ学生が、各学部・研究科の専門分野を修める過程やその他学生生活における諸活動において、互いの理解に努め、個々の差異を尊重し、共に学び合う具体的な学習活動です。その目的は以下のとおりです。

- 知識と視野を広げる中で、自己を相対化し、既存の価値観を再構成しながら、自身の可能性や能力をあらためて肯定し、内面的成長を遂げること。
- 豊かな国際感覚を持ち、多文化社会における共生の知恵、倫理観を培い、あらゆる障壁を越えた協働の力を身に付けること。
- グローバル化する現代社会の諸課題に対応でき、持続可能な未来の発展を共創できる力を育むこと。

本学が推進する国際共修は、日々の教育実践の中で、人権の伸長と国際平和への貢献という建学の理念を生きたかたちで実現していく営みです。そしてそれは、留学生の受入れと派遣、外国語教育などの一部の授業やプログラムにおける教育技法にとどまらず、全学的に貫かれるべき教育の基本理念です。

UNIVERSITY PRESIDENT MESSAGE

【学長メッセージ】



大阪経済法科大学 学長
山垣 真浩

国境を越えて
ともに学びながら
自分を越えていく

本号では「GO BEYOND
〜越えていけ〜」をテーマに、大きな目標に向かい、様々な境界、障壁を越えまたは越えていくこととする学生たちに焦点をあてました。みなさんが成長しようとするとき、学習や活動において未知の領域に踏み出していく、これまでであった境界を越えていくこととなります。

資格試験、課外活動の大会、ゼミでの活動、就職活動など大学生活の中で多くの境界を越えていく挑戦があると思います。その中には大学生であるからこそ挑戦できるものもあり、その代表的なものが留学や留学生との学びではないでしょうか。本学では建学の理念において「人権の伸長と国際平和への貢献」を掲げ、その実践として多様な外国人留学生を積極的に受け入れ、学生の海外派遣に注力してきました。国境という境界を越えていく学び、国際的な学び合い（いわゆる「国際共修」）をより推進し、多様な国際教育の取り組みを「国際共修」として明確に位置づけ、全学的な方針として定めました。

これからみなさんが、国境を越え、あるいは国境を越えていくための学びの場を提供する土台としていきたいと考えております。